

令和6年度第2回別府市人権教育学級

日時 : 令和6年 7月11日(木)10:00~11:50

場所 : 別府市中央公民館 講座室

テーマ : 外国人と人権

身近な言葉から考えるステレオタイプと偏見・差別～「外国人って誰のこと？」～

講師 : 立教大学異文化コミュニケーション研究科博士課程

立教大学日本語教育センター

兼任講師 川野 優希 さん

講師プロフィール

- ・JICA 海外協力隊にてアフリカのルワンダ国で水・衛生活動にも3年間従事
- ・大分市の専門学校にて留学生支援
- ・現在は立教大学異文化コミュニケーション研究科にて、コミュニケーション教育・多文化共生社会づくり
- ・日本語教育など様々な研究活動を行っている傍ら、日本語の講師として留学生に教授
- ・大分県内で多文化共生社会づくりのための日本語教室や講演活動の実施

講演内容

- ステップ1 現状を知る ・日本の教育現場の状況 ・別府市の教育現場
ステップ2 意味を知る ・「外国人」としての生活 ・「外国人」としての教育現場
ステップ3 理由を考える ・偏見、差別、ステレオタイプ ・アンコンシャス・バイアス
ステップ4 今後を考える ・やさしさとは？ ・具体的な取り組み例

講演の様子



〈 講師 川野優希さん 〉



〈 講演の様子 〉



〈 グループワークの様子 〉

参加者感想

- 偏見や差別を持つことは当たり前のことだと気さくに話されたので、心が軽くなった。
- 経験例を踏まえたお話がとても分かりやすかった。別府は外国人の方が多いので、接する機会があれば、お話などしたいと思った。
- 偏見を持っていることを自覚することの大切さを知った。無自覚の偏見になっていなかったかと考え直すきっかけとなった。
- 外国人だけでなく、普段の生活で日本人同士でも偏見・差別があると改めて感じた。勇気をもって相手のことを考えるやさしさを、自分も持ちたい。
- 「誰かに優しい社会はみんなに優しい社会」という言葉が印象的だった。言葉、性別、人種、文化等、偏見の中で声をあげられない人がいるという前提で、自分にできることはないか考えられるようになりたいと思った。